メインテナンスガイド

～安全につながる身近な「点検･整備」

PWC（水上オートバイ）







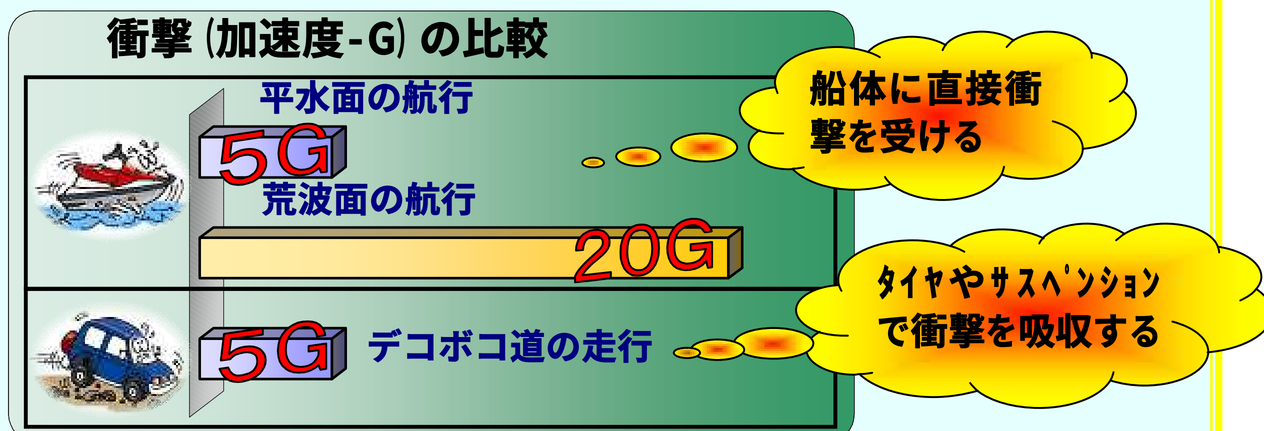
JCI 日本小型船舶検査機構

はじめに

「点検・整備」ってなぜ必要なの？

PWC（Personal Water Craft）は、年々増加し国内に約 10 万隻が存在しています。増加に伴いﾄﾗﾌﾞﾙも多数発生しており、原因としては、①「操船不適切」②「整備不良」等が主なものとなっています。

PWC は、自動車と比較し過酷な条件で使用されています。



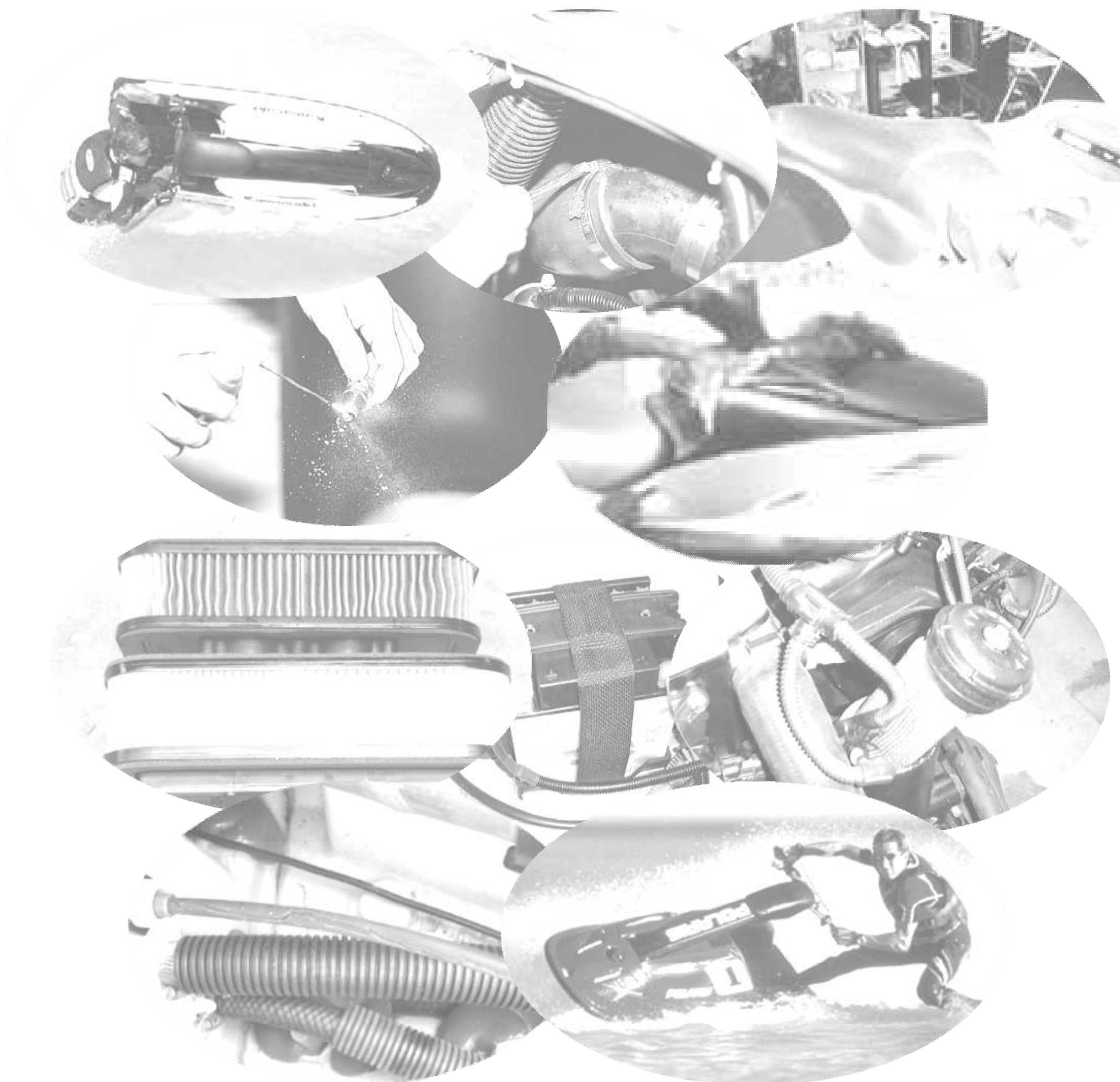
これらのことを認識し、日頃から「点検・整備」を習慣付けましょう。

でもどうやってするの？

本冊子は、ﾒｲﾝﾃﾅﾝｽ上のﾎﾟｲﾝﾄをまとめています。これを参考に「点検・整備」を行って頂くことにより、ﾕｰｻﾞｰの安全に繋がるだけでなく、PWC を良好な状態で長く使用することが出来ます。

なお、修理方法や交換時期などについては、ﾒｰｶｰやﾓﾃﾞﾙ（型式）により異なりますので、ﾒｰｶｰや販売店または取扱説明書で確認して下さい。

目 次



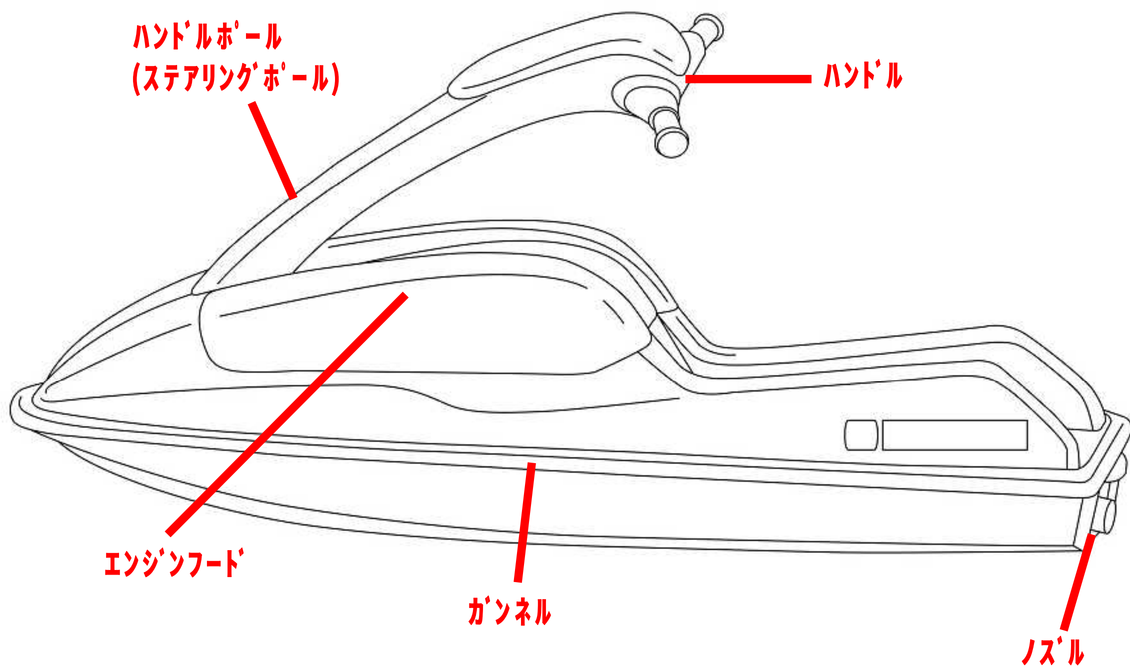
====== 本冊子の見方について ======

チェックポイント！欄の［●／●］は、PWC を［使用する前／使用した後］に行う「点検・整備」を示し、［◎］は、ﾒｰｶｰが推奨する定期的な時期に行う「点検・整備」や「消耗品交換」を示しています。

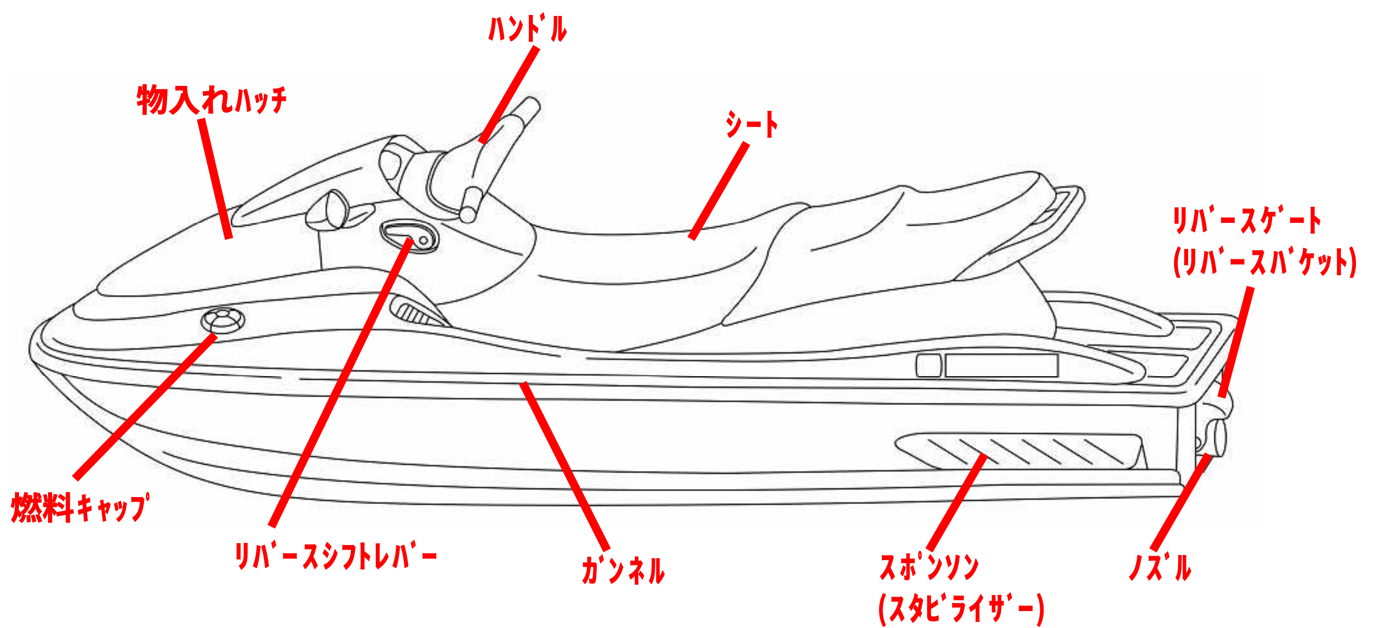
また、Check1･2･3 は、「６．困った時の対処方法」に詳細な内容を掲載しています。

PWC（水上ｵｰﾄﾊﾞｲ）の各部名称

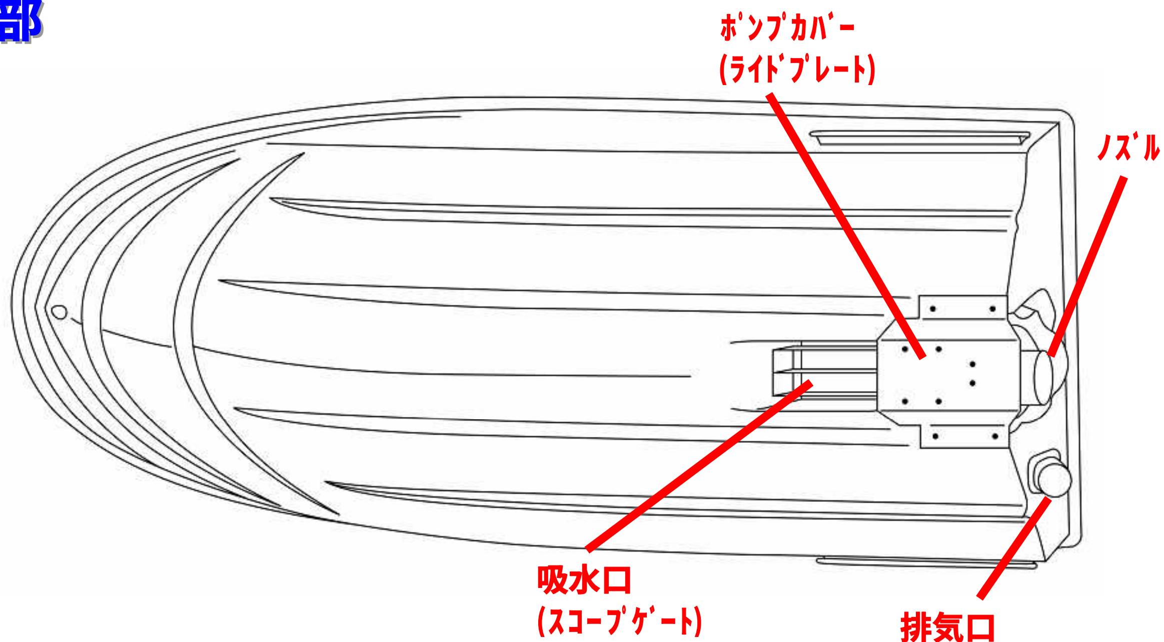
1 人乗り（ｽﾀﾝﾃﾞｨﾝｸﾞﾀｲﾌﾟ）



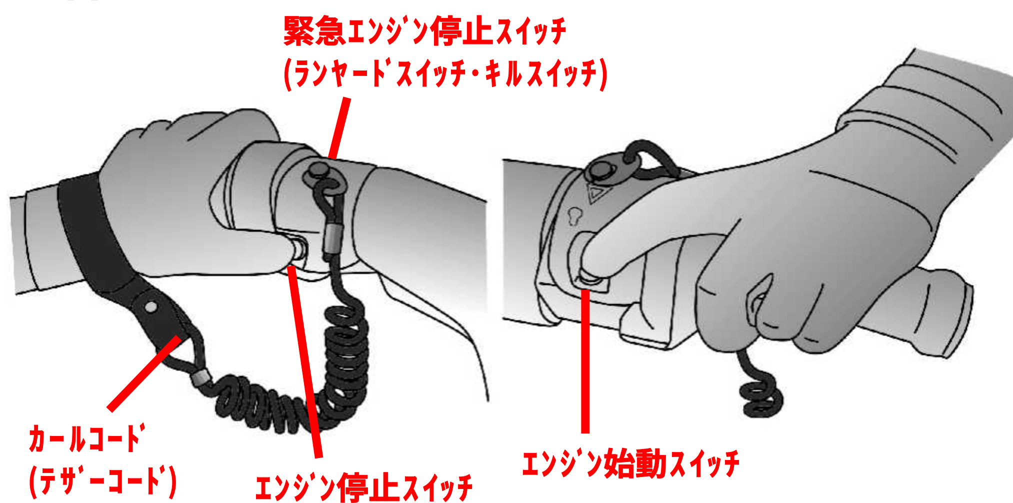
2～4 人乗り（ｼｯﾃｨﾝｸﾞﾀｲﾌﾟ）



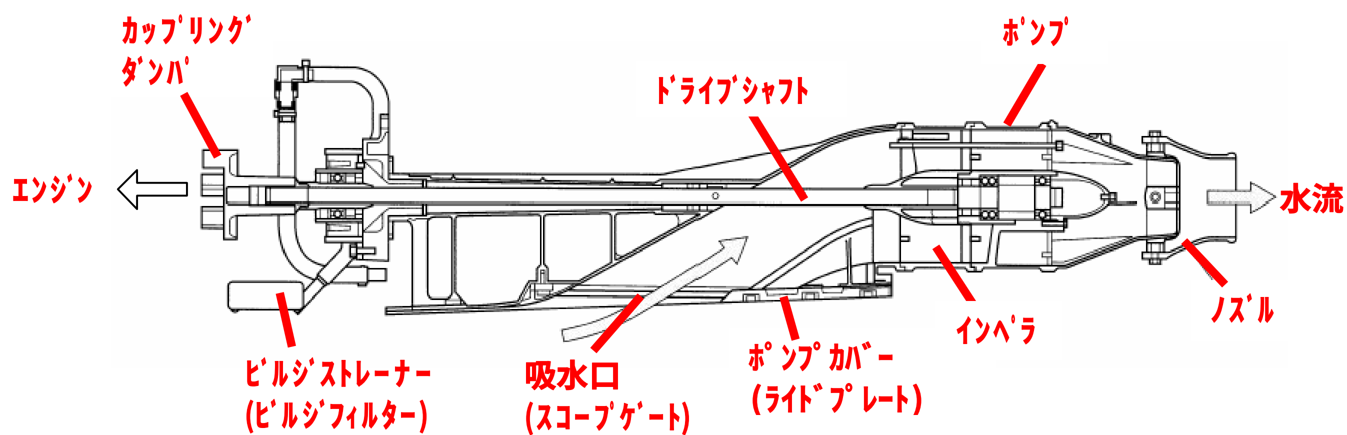
船底部



ハンドル部



ウォータージェット部



１．船体のチェックポイント

① 船体外部

船体は、ｹﾞﾚﾝﾃﾞでの揚げ降ろしの際や航行中の浮遊物との接触により損傷している場合もあります。また、水を取り入れる吸水口やﾉｽﾞﾙに異物を吸い込んでいる場合も多いので点検しましょう。

チェックポイント！

- 船底やｶﾞﾝﾈﾙなどに損傷はありませんか。 ●●
- ﾄﾞﾚﾝﾌﾟﾗｸﾞのﾊﾟｯｷﾝが劣化していませんか。また、確実に締まっていますか。 ●
- ｴﾝｼﾞﾝﾌｰﾄﾞ、ｼｰﾄ及び物入れのﾊｯﾁは確実にﾛｯｸできますか。また、ﾊﾟｯｷﾝは劣化していませんか。 ●
- 吸水口及びﾉｽﾞﾙに異物が詰っていませんか。 ●●
- 塩分、砂などを十分に水で洗い流しましたか。 ……………… ●









ｽｺｰﾌﾟｹﾞｰﾄが損傷している場合があります

② 船体内部

エンジン始動前には、シートやハッチを開け十分に換気を行います。また、ビルジを取り除き、同時にクラック等が無いかを確認します。特にエンジンベッド付近は、応力が集中しますので注意して点検しましょう。

チェックポイント！

- 内部にクラックなどはありませんか。 ●●
- 内部(エンジンルームや物入れ)にビルジはありませんか。 ●
- シート及びハッチを開け換気を十分に行いましたか。 ●
- ドレンプラグを外し塩分、砂などを十分に水で洗い流しましたか。(エンジンルームを洗う際には、キャブレターや電装ボックスに水をかけないようにしましょう。)………………… ●


各ハッチを開け換気


エンジンベット付近


船体内部の洗浄


ポンプ内部の洗浄

浮力が減少するため、内部の浮力体（発泡体等）を取り外さないで下さい

２．機関のチェックポイント

① 機関

始動時には、冷却水が通常の勢いで出ていることを確認します。また、使用後は、清水で冷却系統の洗浄及び金属部分を潤滑剤で防錆し、次回の使用に備えましょう。

チェックポイント！

- ｴﾝｼﾞﾝに影響のある錆や破損はありませんか。 ●
- ﾎｰｽやｸﾗﾝﾌﾟに緩み、割れや曲がりはありませんか。 ●
- 始動後、冷却水出口から水が出ていますか。 ●
- 清水で冷却系統の洗浄を行いましたか。⇒Check2 ●
- 排気系統に溜まった水を排出しましたか。⇒Check2 ●
- ｽﾛｯﾄﾙｹｰﾌﾞﾙ、ﾁｮｰｸｹｰﾌﾞﾙ等に潤滑剤をつけましたか。 ●
- ｽﾊﾟｰｸﾌﾟﾗｸﾞに異常はありませんか。⇒Check1 ◎
- ﾌﾚｰﾑｱﾚｽﾀｰの点検、清掃を行いましたか。 ◎


検水口


ﾎｰｽ・ｸﾗﾝﾌﾟ　ﾎｰｽ（劣化）


潤滑部（ｽﾛｯﾄﾙｽﾌﾟﾘﾝｸﾞ）


潤滑部（ｱｸｾﾙﾜｲﾔｰ）

② 燃料ﾀﾝｸ

燃料ﾀﾝｸに漏れ等が無いか確認します。また、固定用のｺﾞﾑﾊﾞﾝﾄﾞは、劣化により弾力が無くなり、ひび割れが発生しますので定期的に点検しましょう。

チェックポイント！

- 燃料は十分に入っていますか。また、漏れはありませんか。 ●
- 燃料ｷｬｯﾌﾟのｺﾞﾑｶﾞｽｹｯﾄ、Oﾘﾝｸﾞにひび割れ等はありませんか。 ●
- 燃料ﾌｨﾙﾀｰにｺﾞﾐや水はありませんか。 ●◎
- 固定用の｢ｺﾞﾑﾊﾞﾝﾄﾞ｣または｢ｽﾄﾗｯﾌﾟ｣は劣化していませんか。 ◎
- 燃料計は正常に作動しますか。 ●



燃料ﾌｨﾙﾀｰ（新品）



燃料ﾌｨﾙﾀｰ（劣化）



燃料ｷｬｯﾌﾟ



燃料ﾀﾝｸ

燃料ｷｬｯﾌﾟが破損している場合があります

③ ｵｲﾙﾀﾝｸ

分離給油方式(2 ｽﾄﾛｰｸ)の場合は、ﾌｨﾙﾀｰが目詰まりするとｵｲﾙがｷｬﾌﾞﾚﾀｰに供給されなくなります。また、4 ｽﾄﾛｰｸの場合は、常にｵｲﾙの量や汚れを点検しましょう。

チェックポイント！

- ｵｲﾙは十分に入っていますか。また、漏れはありませんか。 ●
- ｵｲﾙは汚れていませんか。(4 ｽﾄﾛｰｸ)⇒Check3 ●◎
- ｵｲﾙﾌｨﾙﾀｰにｺﾞﾐや水はありませんか。 ◎
- 固定用の｢ｺﾞﾑﾊﾞﾝﾄﾞ｣または｢ｽﾄﾗｯﾌﾟ｣は劣化していませんか。(2 ｽﾄﾛｰｸ) ◎


ｵｲﾙﾀﾝｸ (2 ｽﾄﾛｰｸ)


ｵｲﾙﾀﾝｸ (4 ｽﾄﾛｰｸ)


ｵｲﾙﾌｨﾙﾀｰ (4 ｽﾄﾛｰｸ)



④ ﾊﾞｯﾃﾘｰ

容量自体が小さいため比較的簡単に放電し、長期間放置しますとｻﾙﾌｪｰｼｮﾝ(極板が白くなる)により機能が低下しますので、定期的に補充電しましょう。また、ﾀｰﾐﾅﾙ部が腐蝕している場合は、ﾜｲﾔﾌﾞﾗｼ等でよく磨きます。使用後は、ﾀｰﾐﾅﾙ端子を必ず外しておきましょう。(先にﾏｲﾅｽ側から外します。)

また、密閉式ﾊﾞｯﾃﾘｰ以外のﾊﾞｯﾃﾘｰには、水素ｶﾞｽ排出ﾎｰｽが取付けられているか確認しましょう。

チェックポイント！

- 液量、電圧及びﾀｰﾐﾅﾙ端子の接続は適正ですか。 ●
- ﾀｰﾐﾅﾙ端子に錆は発生していませんか。 ●
- ﾀｰﾐﾅﾙ端子を外しましたか。 ●
- 固定用の「ｺﾞﾑﾊﾞﾝﾄﾞ、ｽﾄﾗｯﾌﾟの劣化」または「ﾌﾟﾗｽﾁｯｸｶﾊﾞｰの割れ」はありませんか。 ◎
- 水素ｶﾞｽ排出ﾎｰｽが取付けられていますか。 ●

※密閉式ﾊﾞｯﾃﾘｰ(ﾒﾝﾃﾅﾝｽﾌﾘｰ)は、液量の補充は不要



開放式



密閉式









水素ｶﾞｽ排出ﾎｰｽが取付けられたﾊﾞｯﾃﾘｰ

※充電後、電圧を測定し「12.6V 以上　良好」・「12.0V 以上 12.6V 未満再充電」・「12.0V 未満　ﾊﾞｯﾃﾘｰ交換」の判断をします。

※充電器は、開放式ﾊﾞｯﾃﾘｰ用のものと密閉式ﾊﾞｯﾃﾘｰ用のものがありますので、適切なものを使用しましょう。

※密閉式ﾊﾞｯﾃﾘｰ以外のﾊﾞｯﾃﾘｰには、水素ｶﾞｽが発生し、爆発の恐れがあるため、必ず水素ｶﾞｽ排出ﾎｰｽが取付け、排出ﾎｰｽの出口を船外まで取付けて下さい。

３．推進装置のチェックポイント

ｼﾞｪｯﾄﾎﾟﾝﾌﾟなどの点検は、必ずｴﾝｼﾞﾝを止めて行いましょう！

① ｲﾝﾍﾟﾗ

砂や石などの吸い込みにより、ｲﾝﾍﾟﾗに欠けや曲がりが生じる場合があります。ｲﾝﾍﾟﾗの欠けや曲がりは、ﾎﾟﾝﾌﾟｹｰｽ内壁の損傷、推進力の低下の原因になりますで点検しましょう。

チェックポイント！

- 欠けや曲がりなどの損傷はありませんか。 ●●


破損したｲﾝﾍﾟﾗ


損傷したﾎﾟﾝﾌﾟｹｰｽ



② ﾎﾟﾝﾌﾟ・ﾉｽﾞﾙ・ﾄﾞﾗｲﾌﾞｼｬﾌﾄ・ｶｯﾌﾟﾘﾝｸﾞﾀﾞﾝﾊﾟ

ﾎﾟﾝﾌﾟ内にｺﾞﾐや砂などを吸い込んだまま放置すると、ﾎﾟﾝﾌﾟ内部の損傷、ｵｰﾊﾞｰﾋｰﾄ、排気系冷却水路の目詰まりの原因になりますので点検しましょう。また、ｶｯﾌﾟﾘﾝｸﾞﾀﾞﾝﾊﾟは、ｺﾞﾑ製のため硬化や摩耗が生じますので、定期的に点検しましょう。

チェックポイント！

- ｺﾞﾐ等の異物はありませんか。 ●●
- ｹｰﾌﾞﾙやｼﾞｮｲﾝﾄ部に潤滑剤をつけましたか。 ●
- ﾎﾟﾝﾌﾟ内壁などに損傷はありませんか。 ◎
- ﾍﾞｱﾘﾝｸﾞ部は「ｵｲﾙ」または「ｸﾞﾘｽ」交換をしましたか。 ◎
- ｶｯﾌﾟﾘﾝｸﾞﾀﾞﾝﾊﾟは点検しましたか。 ◎


ﾄﾞﾗｲﾌﾞｼｬﾌﾄ･ｶｯﾌﾟﾘﾝｸﾞﾀﾞﾝﾊﾟ


ｶｯﾌﾟﾘﾝｸﾞﾀﾞﾝﾊﾟ


潤滑部（ﾉｽﾞﾙｹｰﾌﾞﾙｼﾞｮｲﾝﾄ）



電蝕防止のため消耗したら交換しましょう

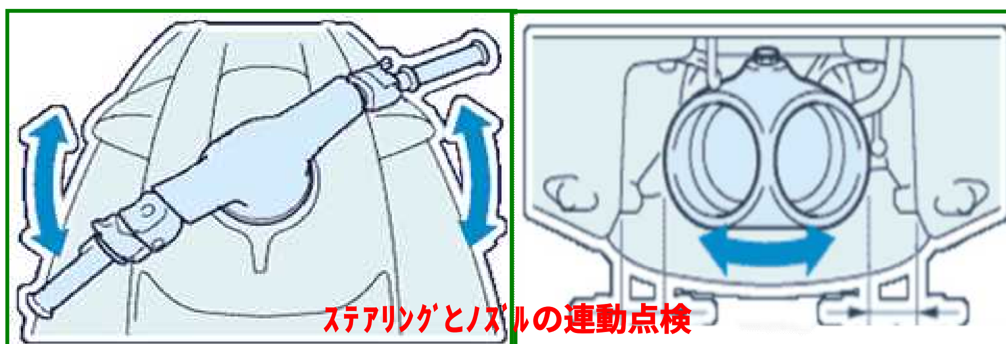
４．操舵装置のチェックポイント

① ｽﾃｱﾘﾝｸﾞ

　ﾊﾝﾄﾞﾙを左右に動かして、ﾉｽﾞﾙが適正に連動しているか確認します。ｹｰﾌﾞﾙやｼﾞｮｲﾝﾄ部は、腐蝕しやすいので使用後は、必ず潤滑剤をつけましょう。

チェックポイント！

- ﾊﾝﾄﾞﾙとﾉｽﾞﾙは、左右適正に連動していますか。 ●
- ﾊﾝﾄﾞﾙﾎﾟｰﾙ取付け部のﾎﾞﾙﾄに緩みやｽﾌﾟﾘﾝｸﾞに錆はありませんか。(ｽﾀﾝﾃﾞｨﾝｸﾞﾀｲﾌﾟ) ●
- ｹｰﾌﾞﾙに緩みはありませんか。 ●
- ｹｰﾌﾞﾙに潤滑剤をつけましたか。 ●


ｽﾃｱﾘﾝｸﾞとﾉｽﾞﾙの連動点検









② ｽﾛｯﾄﾙﾚﾊﾞｰ・ｽﾀｰﾄﾎﾞﾀﾝ・ｽﾄｯﾌﾟﾎﾞﾀﾝ・ﾗﾝﾔｰﾄﾞｽｲｯﾁ（ｷﾙｽｲｯﾁ）・ﾘﾊﾞｰｽｼﾌﾄ・ﾁｮｰｸ

　ｽﾛｯﾄﾙﾚﾊﾞｰは、指を放すと元の位置に戻ること、動きに引っかかるような感じが無いかを確認しましょう。また、水面に下ろし出発する前に、ｴﾝｼﾞﾝを始動させﾗﾝﾔｰﾄﾞｽｲｯﾁ(ｷﾙｽｲｯﾁ)が作動することを確認しましょう。

チェックポイント！

- ｽﾛｯﾄﾙﾚﾊﾞｰ等の各装置が正常に作動していますか。 ●
- ｹｰﾌﾞﾙに潤滑剤をつけましたか。 ●


各装置(ﾊﾝﾄﾞﾙ)


ﾁｮｰｸ


潤滑部(ｱｸｾﾙﾜｲﾔｰ)


ﾘﾊﾞｰｽｼﾌﾄ

ﾘﾊﾞｰｽｼﾌﾄｽﾌﾟﾘﾝｸﾞは、外れている場合があります


潤滑部(ﾘﾊﾞｰｽｼﾌﾄｽﾌﾟﾘﾝｸﾞ)

５．設備・表示のチェックポイント

① ライフジャケット以外にも何か必要なの？

「小型船舶用救命胴衣（笛付）・定員分」、「小型船舶用信号紅炎・１ ｾｯﾄ」及び「係船索（ﾛｰﾌﾟ）・１ 本」が必要です。

チェックポイント！

- 救命胴衣は、生地の破れ、ﾌｧｽﾅｰ、ﾊﾞｯｸﾙの破損や浮力材の偏りがありませんか。
- 信号紅炎の有効期限が切れていませんか。
- 笛が「各救命胴衣または船体」にありますか。



検査証書･検査手帳も忘れずに！



充電を忘れずに！

参考

小型船舶用信号紅炎は、携帯電話での代替が可能です。但し、通話ｴﾘｱや防水機能(IP ｺｰﾄﾞ 4 級(防まつ形)以上)等の確認が必要となります。

救命胴衣を着用しましょう



② シールが取れてしまったけどこれって必要？

「**最大搭載人員**」、「**船舶検査済票番号**」及び「**都道府県名**」を船体に表示する必要があります。

また、その他の「**警告ﾗﾍﾞﾙ等**」についても表示が必要ですので、剥れた場合や無い場合は、各ﾒｰｶｰや販売店に問合せ、表示しましょう。

チェックポイント！

- 各表示が剥れていませんか。







済票等を貼る際は、
油脂分を除去して
から貼りましょう



６．困った時の対処方法

① 逆さまになったらどうするの？

ｴﾝｼﾞﾝが停止していることを確認し、水上ｵｰﾄﾊﾞｲの右後部に回り込み、船体を時計方向(右回り)に回転させて起こしましょう。

※右回りに回転させる理由は、ｷｬﾌﾞﾚﾀｰが右舷側、ﾏﾌﾗが左舷側にあることから、ｼﾘﾝﾀﾞｰ内部への水の浸入が防止できるからです。



② 船内が水でいっぱいになってしまったら・・・
（2 ストローク編）

PWC を速やかに陸揚げ後、燃料ｺｯｸを OFF にし、ﾄﾞﾚﾝﾌﾟﾗｸﾞを外します．その後、船体を横(ｷｬﾌﾞﾚﾀｰを上の状態)にして、船内に溜まった水を全て排出します。また、その際にｽﾊﾟｰｸﾌﾟﾗｸﾞを外しｸﾗﾝｷﾝｸﾞ(ｽﾀｰﾀｰを回す)をｼﾘﾝﾀﾞｰ内の水が無くなるまで行います。

乾燥させたｽﾊﾟｰｸﾌﾟﾗｸﾞを取付け、燃料ｺｯｸを ON にして水上または水栓ｷｯﾄを利用しｴﾝｼﾞﾝを始動させます。

始動後、ｽﾊﾟｰｸﾌﾟﾗｸﾞを外し水が付着しているようであれば、燃料ﾀﾝｸに水が浸入しているので新しい燃料と入れ換えます。

（4 ストローク編）

２ ｽﾄﾛｰｸ編の方法に追加して、ｲﾝﾚｯﾄｻｲﾚﾝｻやﾏﾆﾎｰﾙﾄﾞの点検及びｴﾝｼﾞﾝｵｲﾙの点検が必要となります。詳しくは、取扱説明書に従って行って下さい。

※「２ ｽﾄﾛｰｸ」及び「４ ｽﾄﾛｰｸ」共に、上記の処置を行ったあと、販売店等に整備してもらう方が良いでしょう。





③ ブースターケーブルはどこに繋げるの？

ﾊﾞｯﾃﾘｰが上がった場合は、緊急措置としてﾌﾞｰｽﾀｰｹｰﾌﾞﾙによりｴﾝｼﾞﾝを作動できます。

なお、ﾊﾞｯﾃﾘｰはそのまま使用せずに、充電または交換を行って下さい。

接続順序

1．ﾊﾞｯﾃﾘｰが上がった PWC の「＋」へ(赤ｹｰﾌﾞﾙ)
2．救援する PWC の「＋」へ(赤ｹｰﾌﾞﾙ)
3．救援する PWC の「－」へ(黒ｹｰﾌﾞﾙ)
4．ﾊﾞｯﾃﾘｰが上がった PWC の「ｴﾝｼﾞﾝ」へ(黒ｹｰﾌﾞﾙ)

※取外しは、逆の順序で行います。（4.→1.）

※誤った接続や手順を間違いますと水素ｶﾞｽへ火花が引火する可能性があります。

④ シーズンオフは、どうしたら良いの？

長期保管する場合は、下記の項目を取扱説明書に従いながらﾒｲﾝﾃﾅﾝｽすることで来ｼｰｽﾞﾝ快適にｽﾀｰﾄできます。自分でﾒｲﾝﾃﾅﾝｽを行うことが無理な場合や面倒な場合は、販売店等でも保管するためのﾒｲﾝﾃﾅﾝｽを行ってくれます。

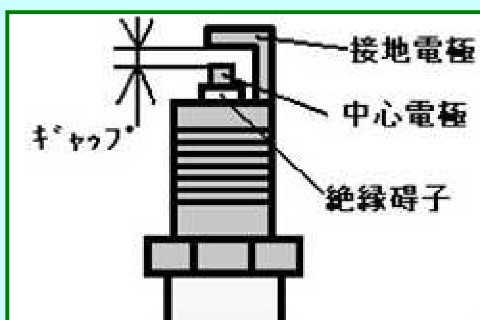
- 燃料は全て抜取り、燃料ﾀﾝｸを清掃する。(※)
- ｵｲﾙの点検、交換を行う。(4 ｽﾄﾛｰｸ)⇒ Check3
- 燃料ﾌｨﾙﾀｰ及びｵｲﾙﾌｨﾙﾀｰの清掃、交換をする。
- ﾊﾞｯﾃﾘｰを外し液量の点検及び充電をする。⇒P6
- ﾋﾞﾙｼﾞ系統の洗浄を行う。
- ｽﾊﾟｰｸﾌﾟﾗｸﾞの清掃、交換をする。⇒ Check1
- 各ｼﾘﾝﾀﾞｰへｵｲﾙまたは潤滑剤を注入し数回ｸﾗﾝｷﾝｸﾞさせる。
- 各可動部へ潤滑する。(ﾜｲﾔｰ、ｹｰﾌﾞﾙ、ｼﾞｮｲﾝﾄなどの金属部)⇒P3･9･10
- 乾燥剤をｴﾝｼﾞﾝﾙｰﾑへ入れる。(市販のもので可)
- 船体をﾜｯｸｽ(ｺﾝﾊﾟｳﾝﾄﾞ無の自動車用で可)がけし、屋外保管の場合はｼｰﾄｶｰﾊﾞｰをする。

※燃料を入れた状態で保管を推奨するﾀｲﾌﾟもあります。



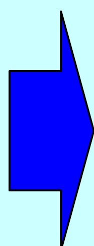
Check 1　スパークプラグを見て調子が分かるの？

　ﾌﾟﾗｸﾞの先端部分の中心電極が黒く汚れていたり、中心電極と接地電極(ｷﾞｬｯﾌﾟ)が適正でない場合や摩耗している場合がありますので、ﾜｲﾔｰﾌﾞﾗｼ等で汚れを落とし、ﾌﾟﾗｸﾞｷﾞｬｯﾌﾟの調整を行います。また、汚れが落ちない場合やﾈｼﾞ部の損傷の場合は、新品に交換しましょう。











ｴﾝｼﾞﾝの調子を判断

絶縁碍子「白色」	絶縁碍子「黒色」	絶縁碍子「薄褐色」
・混合気が薄い ・燃料ﾌｨﾙﾀｰのつまり ・ｷｬﾌﾞﾚﾀｰ内のｼﾞｪｯﾄのつまり ・ｴｱｰの漏れ ・ｾｯﾃｨﾝｸﾞ不良	・混合気が濃い ・電気系統の故障 ・ｵｲﾙ量の過多 ・ｽﾊﾟｰｸﾌﾟﾗｸﾞの欠陥	・適正に作動

[写真：㈱ﾃﾞﾝｿｰ HP より]

Check2 正しい洗い方を教えて！

　洗浄用のﾊﾞﾙﾌﾞ(ﾒｰｶｰやﾓﾃﾞﾙにより異なる)へﾎｰｽを繋ぎ、ｸﾗﾝﾌﾟで固定します。ｴﾝｼﾞﾝ始動後に速やかに水を出します。このとき、検水口から水が出ていることを確認します。

　3 分間程度ｱｲﾄﾞﾘﾝｸﾞさせて、水を止めます。その後、排気系統の水を排出するために、空ぶかしを 4～5 回(10 秒以内)程度行い、ｴﾝｼﾞﾝを停めて終了です。

(ｷｬﾀﾗｲｻﾞｰ(触媒)装置付の場合は、空ぶかし回転数に制限があります。)


ﾎｰｽの接続

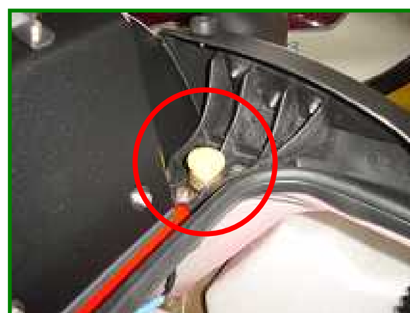

洗浄中


空ぶかし

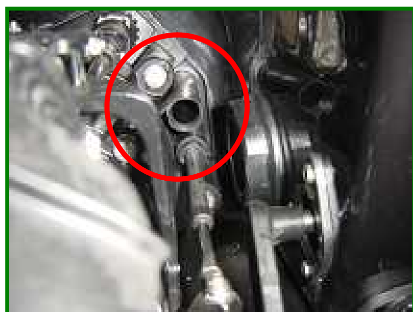
ﾒｰｶｰ・ﾀｲﾌﾟ別の洗浄用のﾊﾞﾙﾌﾞ位置

Kawasaki JETSKI











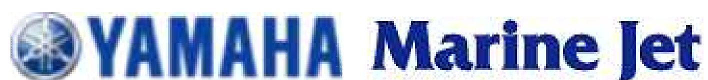






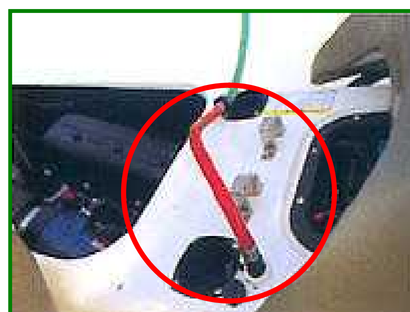


※間接冷却の　4　ｽﾄﾛｰｸは、排気系統以外の冷却をｸｰﾗﾝﾄ液により循環させていますので、塩害等の心配はありませんが、ｸｰﾗﾝﾄ液量の確認を行いましょう。









Check3 オイルの点検や交換はどうすれば良いの？（4ストローク）

　ｴﾝｼﾞﾝｵｲﾙは、潤滑・冷却・防錆・防塵等の多くの役割を果たしているため、ﾒﾝﾃﾅﾝｽ上重要な項目となっています。

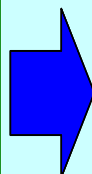
　ｵｲﾙﾚﾍﾞﾙﾁｪｯｸ方法(冷間時)は、各ﾒｰｶｰほぼ同じであり、点検時に**船体を出来る限り水平に保つ**ことがﾎﾟｲﾝﾄです。

　ﾚﾍﾞﾙｹﾞｰｼﾞを抜き、布で拭き取ります。ﾚﾍﾞﾙｹﾞｰｼﾞを奥まで差し込み、再度抜き、ｵｲﾙが上限(H)と下限(L)の間にあることを確認します。

　ｵｲﾙ交換は、ﾄﾞﾗｲｻﾝﾌﾟ方式のためｵｲﾙﾊﾟﾝが存在しません。各ﾒｰｶｰともｵｲﾙ注油口やｵｲﾙﾚﾍﾞﾙｹﾞｰｼﾞ口から吸い上げる方法(ﾊﾞｷｭｰﾑﾎﾟﾝﾌﾟ等)となります。

　ｵｲﾙﾌｨﾙﾀｰ(ｶｰﾄﾘｯｼﾞ式等)は、ﾒｰｶｰが推奨する使用時間毎に交換しましょう。


新品オイル




劣化オイル


ﾊﾞｷｭｰﾑﾎﾟﾝﾌﾟ


ｵｲﾙﾌｨﾙﾀｰ（新品）


ｵｲﾙﾌｨﾙﾀｰ（劣化）

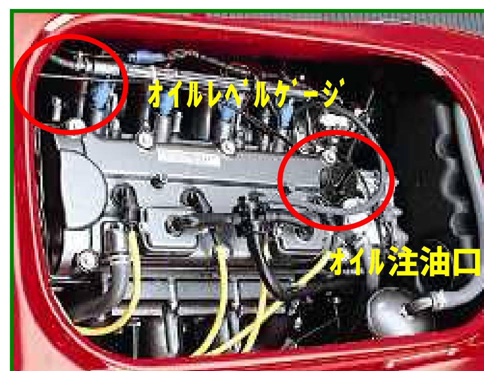

ｵｲﾙﾌｨﾙﾀｰ
新品　劣化

※油脂類の廃液（ｶﾞｿﾘﾝやｵｲﾙ）は、所定の方法により処理して下さい。

ﾒｰｶｰ別のｵｲﾙ点検位置とｵｲﾙ注油口

Kawasaki JETSKI







SEA-DOO







POLARIS







YAMAHA Marine Jet





７．航行区域

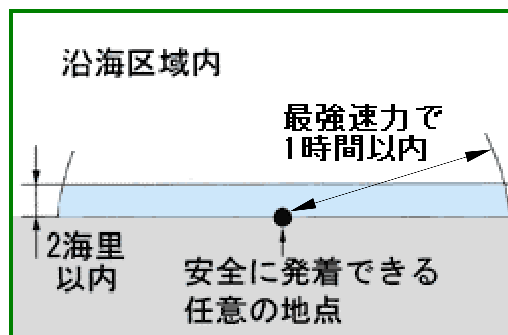
どこでも乗って良いの？

用途に応じて「可搬型」、「搭載型」及び「競走用」の航行区域があり、最も一般的なものが、「可搬型」です。

「可搬型」は、A「平水区域(船舶安全法施行規則第 1 条第 6 項で定められた水域)内の陸岸から 2 海里以内」及び B「沿海区域内で安全に発着できる任意の地点から最強速力で 2 時間以内に往復できる水域のうち陸岸から 2 海里以内」を航行できます。

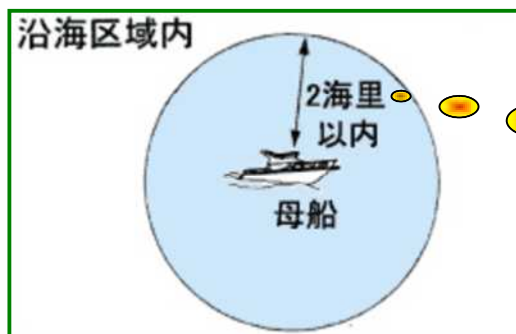


A 平水区域



B 沿海区域

「搭載型」は、「沿海区域内で母船から半径 2 海里以内の水域」及び「可搬型」A を航行できます。また、「可搬型」B の航行区域を併記することができます。なお、「搭載型」とする場合は、母船の要件(搭載能力等)を検査または調査により確認受ける必要があります。



1 海里は、
1852m です

「競走用」は、ﾏﾘﾝｽﾎﾟｰﾂ財団からの申し出により認められた「指定水域」の航行に限定されます。また、「競走及び競走の練習」のみの使用となります。なお、ﾏﾘﾝｽﾎﾟｰﾂ財団または日本ｼﾞｪｯﾄｽﾎﾟｰﾂ連盟で競走用水上ｵｰﾄﾊﾞｲの登録を行っています。



ご不明な点等については、最寄りの日本小型船検査機構(JCI)支部にお問合せ下さい。

日本小型船舶検査機構所在地

事務所名	〒	住　　所	電　話	FAX
本　部	1020073	東京都千代田区九段北４－１－３ 飛栄九段北ビル５階	03-3239-0821	03-3239-0829
札幌支部	0620003	札幌市豊平区美園三条５－１－１５ 原ビル４階	011-837-1102	011-837-1103
函館支部	0400052	函館市大町９－２０ カクタスビル２階	0138-26-3583	0138-26-1123
青森支部	0300803	青森市安方１－１－３２ 水産ビル５階	017-777-2491	017-777-2492
仙台支部	9850011	塩竈市貞山通３－４－６	022-364-8647	022-364-8658
秋田支部	0110945	秋田市土崎港西１－７－２８	018-857-4344	018-857-4345
千葉支部	2600024	千葉市中央区中央港１－１６－２１	043-204-9701	043-246-8070
東京支部	1360082	東京都江東区新木場１－２－１５	03-3522-5330	03-3522-5331
横浜支部	2360004	横浜市金沢区福浦２－１５－２２	045-780-3450	045-780-3451
新潟支部	9500066	新潟市東区長者町６－１	025-279-3690	025-279-3691
金沢支部	9200027	金沢市駅西新町２－１５－３７ コーワ102ビル２階	076-222-2645	076-222-2647
浜松支部	4328033	浜松市中区海老塚１－８－２７	053-455-0643	053-455-0615
沼津支部	4100853	沼津市常盤町１－２－６ Ｍビル常盤	055-952-3981	055-952-3982
名古屋支部	4610048	名古屋市東区矢田南１－４－１５	052-712-3151	052-712-3030
鳥羽支部	5170011	鳥羽市鳥羽３－７－７　ＮＴＴ鳥羽ビル第３棟２階	0599-25-6151	0599-25-6137
大津支部	5200002	大津市際川１－２－１２	077-525-2687	077-525-2662
舞鶴支部	6240913	舞鶴市字上安久１３５－５　第２西矢ビル	0773-76-3282	0773-76-4027
大阪支部	5510031	大阪市大正区泉尾７－７－３	06-6554-0151	06-6554-0152
神戸支部	6512132	神戸市西区森友２－４７－４	078-925-1300	078-925-1302
和歌山支部	6408287	和歌山市築港４－５	073-431-9709	073-431-9735
境支部	6840071	境港市外江町１６２６　岡野ビル	0859-44-5178	0859-44-5184
岡山支部	7028006	岡山市中区藤崎５５１－１４	086-200-1780	086-200-1781
広島支部	7340011	広島市南区宇品海岸３－９－３８	082-254-6027	082-254-6028
尾道支部	7220036	尾道市東御所町９－１ 尾道ｳｫｰﾀｰﾌﾛﾝﾄﾋﾞﾙ４階	0848-23-7250	0848-23-7880
下関支部	7520953	下関市長府港町１－７	0832-45-3241	0832-45-3641
高松支部	7600080	高松市木太町２６８２－３	087-812-2306	087-812-2307
松山支部	7918062	松山市住吉２－１２－９	089-952-3463	089-952-3412
高知支部	7800812	高知市若松町１３－１７	088-882-3003	088-882-3018
福岡支部	8120044	福岡市博多区千代６－１－５７	092-632-0552	092-632-0545
長崎支部	8590401	長崎県諫早市多良見町化屋１８５２－２	0957-43-5090	0957-43-5250
三角支部	8693207	熊本県宇城市三角町三角浦１１６０－１７９	0964-52-3800	0964-52-3809
大分支部	8740925	別府市若草町１４－４	0977-21-2461	0977-21-9587
鹿児島支部	8910122	鹿児島市南栄６－２－１１	099-262-3801	099-262-3803
沖縄支部	9000012	那覇市泊３－１ －８	098-863-7002	098-862-8551



JCI ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ　http：//www．jci．go．jp

平成 21 年 4 月作成